

令和元年度第1回埼玉県南西部地域保健医療・地域医療構想協議会
議事概要

1 日 時

令和元年7月18日（木）15：00～16：30

2 場 所

朝霞保健所 大会議室

3 出席者

【委 員】

村山正昭委員、関谷治久委員、須田勝行委員、新井信明委員、畑中典子委員、村田順委員、菅野隆委員、原彰男委員、鈴木義隆委員、富家隆樹委員、関則子委員、仙石由美子委員、柳下譲次委員、久保健二委員、桑島修委員、麦田伸之委員、竹之下力委員、大森重治委員、湯尾明委員

【オブザーバー】

管内市・町職員及び保健センター職員

【事務局】

保健医療政策課職員、医療整備課職員、朝霞保健所職員

【説明者】

病床整備計画応募医療機関

【傍聴人】

10名

4 議事

(1) 南西部圏域における継続協議病床の整備について【資料1】

ア 資料1-1～2に基づき、医療整備課が説明した。

イ 資料1-3-1～5に基づき、各応募医療機関が順次説明した。

(質疑)

○資料1-3-1 医療法人さくら さくら記念病院について

Q 前回からの修正点は。

A 病床の算出根拠を見直した。

○資料 1-3-2 医療法人泰一会 和光リハビリテーション病院について

Q 退院後のリハビリ提供体制についてどう考えているか。

A 訪問リハのセラピストを多数抱えており、地域貢献という意味も含めて自宅での生活をサポートしたい。

○資料 1-3-3 医療法人社団草芳会 三芳野病院について

Q 前回、自院完結型を再考するよう意見があったがそれをどう反映させたか。

A より地域連携を進めていくということで、ポストアキュート、サブアキュートを充実していくよう計画を練り直した。

○資料 1-3-4 医療法人社団晃悠会 ふじみの救急クリニックについて

Q 県は常々、地域との連携、地元医師会との連携をキーワードとしている。調書には、地元の診療所、医師会のことに触れられていない。地域の連携をきちんとやってもらいたい。

A 近隣の病院とは顔合わせをし、連携をとっている。

救急科、脳神経外科を標榜しているが、救急科の中には様々な疾患が含まれ、幅広く急性期の疾患を診ている。こちらで応急処置をし、近隣の専門医を受診するよう促している。

○資料 1-3-5 (仮) 朝霞台駅前耳鼻科クリニックについて

Q 地元の病院と連携をどう図っていくのか。

A 開設前なので書面ではなく、各病院の連携室に電話で連携体制を照会している中で、まずは連携医療機関になっていただけるとの回答を頂いている。

○ (全体を通しての意見)

- ・ 地元の先生方と密に連絡を取りつつお話を進めていただけるとありがたい。
- ・ 計画段階から地域のニーズに応えるよう医師会に相談してもらおうと連携がスムーズに進むので、御配慮いただきたい。
- ・ 調書にどのような連携をとるのか具体例が入っていなかった。動こうと思ったときにどのような連携が取れるのかの具体例が必要である。
- ・ 事務局 (医療整備課) : この後、連携内容をしっかりと確認した上で、改めてこの場で報告していただき、許可という流れになる。地域包括ケア病床については、どう地域包括ケアシステムに貢献していくのか、システムを作っている各市町の課題に対してどのように役割を果たしていくのか、明確に役割を示してもらうことが許可の前提となる。

(2) 第7次埼玉県地域保健医療計画の一部改訂について【資料2】

資料2-1～6に基づき、保健医療政策課が説明した。

(3) 公立・公的医療機関等における具体的対応方針の検証について【資料3】

資料3に基づき、保健医療政策課が説明した。

(4) 医療提供体制のあり方検討について【資料4】

資料4に基づき、保健医療政策課が説明した。

(質疑)

Q 介護医療院へのアンケート実施を考えているのか。

A 事務局（保健医療政策課）：介護医療院はアンケートの対象に入っていない。

急性期から回復期への患者の流れ、地域包括ケア病床の運用の状況という
2点を中心にアンケートを行う。